

初代・第3代牧師 海老名弾正（1856. 9. 18 生～1937. 5. 22 没）

東京・本郷の地で、弓町本郷教会の前身となる「湯島講義所」が、初代牧師・海老名弾正によりその歩みを切り拓かれたのは、1886（明治19）年10月10日のことだった。

海老名弾正（幼名：喜三郎）は、1856（安政4）年、現在の福岡県柳川市にあたる筑後国柳川藩に武士の子として誕生。

1865（慶應元）年、9歳で武士の師弟の慣例により藩校・伝習館に入学。幕末の経世家・横井小楠一門の師に師事し、儒教を中心に学問への見識を広めた。

1872（明治5）年、16歳の折り、明治新時代の幕開けにおいて熊本藩が先駆的に開設した・熊本洋学校に留学。後の盟友となる小崎弘道、金森通倫、市原盛宏ら「熊本バンド」のメンバーと出会った。

同時に、外国人教師 L. L. ジェーンズの指導を受け、彼の厳格な学問とキリスト教信仰に感化を受けた。

さらに、熊本郊外の丘・花岡山にて、熊本洋学校のキリスト教を信ずる生徒が連署した「奉教趣意書」に連なり、神の御手の内に生涯歩むことを決意。ジェーンズより受洗した。

折しも、まだ1873（明治6）年にキリスト教禁教の高札が撤廃されていた数年後のことであり、花岡山での出来事は、熊本市内において一大事件となった。

一方、京都では、1875（明治8）年、アメリカより帰国した新島襄が同志社英学校を設立。その報を聞きつけたジェーンズは、新島に熊本バンドの将来を託し、海老名は同志社へと向かうこととなった。

ジェーンズから信仰と科学を区別する姿勢を学び、聖書に含まれる事実と神話を分けて読むよう訓練されていた海老名は、当初、素朴に聖書の内容を信じ、教えようとする新島やアメリカン・ボードの外国人宣教師に反発した。また、すでにジェーンズから英語によって様々な学問の指導を受けていた彼は、当初より同志社に在籍していた生徒たちとの習熟度の違いに不満を抱いていた。

しかし、新島の生徒一人ひとりを大切に教育しようとする姿勢と彼の人格に大きな感化を受け、敬意を払った。

後年、こうした同志社での生活のうち、後に彼の思想と行動に決定的な影響を与えることとなった宗教的体験について次のように語っている。それは、瞑想と内観の末に「我は仙洞御所の池の畔、大樹の下、ゲセマネーに於けるキリストの祈を捧げた。この時恰もの赤子が我が衷心に誕生し居るを自覚し、「この時より我は神の赤子となった」というものだった（海老名弾正『基督教新論』警醒社書店、1918年、6項）。

1879（明治12）年、同志社神学校を卒業した海老名は、新島の故郷・群馬の安中教会初代牧師に就任する。また前橋でも伝道所により、百数十名の受洗者を生んだ。

1882（明治15）年、後に本郷教会第2代牧師となる横井時雄の妹みやと結婚。

1886（明治19）年には、新島襄を長とするキリスト教伝道団体である日本伝道会社が「日本組合基督教会」の設立を決議し、東京における伝道の更なる拡大を図った。

これを受けて、海老名は当初湯島を拠点に「湯島講義所」（後、本郷教会）を設立。

この講義所が現在の弓町本郷教会へと連なっている。

その後の海老名は熊本の英学校、京都の伝道会社、神戸の教会を経て、再び東京において本郷教会で伝道。東京帝国大学の学生、教職員を始め多くの人々に多大な感化と影響を与えた。

その中には、大正デモクラシーの騎手・吉野作造もいる。

海老名は、1900（明治33）年、吉野ら東京帝大の教員・学生を中心とするメンバーと共に雑誌『新人』を発行。

活発な言論活動を展開し、本郷教会は大正デモクラシーの牙城ともなった。

晩年においては、1920（大正9）年、大学令による同志社の「大学」昇格と同時に、第8代同志社総長に就任。

「人格教育」、「デモクラシー」、「インターナショナリズム」、「男女共学」を理念とし、法学部に多くの優秀な教員を招くなど、同志社大学の質と規模の拡充に貢献。同時に、同志社教会牧師として、多くの学生、市民に感化を与え、学園と教会の両面の充実に力を尽くした。

1928（昭和3）年、同志社総長を辞任した後は、東京に戻り、1930（昭和5）年、本郷教会名誉牧師となった。

1936（昭和11）年10月10日には、現在の会堂で、本郷教会設立50周年の記念礼拝において説教を行った。翌1937（昭和12）年5月、天に召され、地上の生涯を終えた。

<参考文献>

和田洋一編『同志社の思想家たち 上』同志社大学生協出版部、1965

吉馴明子『海老名弾正の政治思想』東京大学出版会、1982

弓町本郷教会百年史委員会編『弓町本郷教会百年史』弓町本郷教会、1986

同志社山脈編集委員会編『同志社山脈—113人のプロフィール—』晃洋書房、2003